

7 本時の学習

(1) 本時の目標

1 位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、被加数よりも加数の方が大きいときの答えを求める活動を通して、被加数を分解して計算する方法があることを知り、計算の仕方について理解を深めることができる。

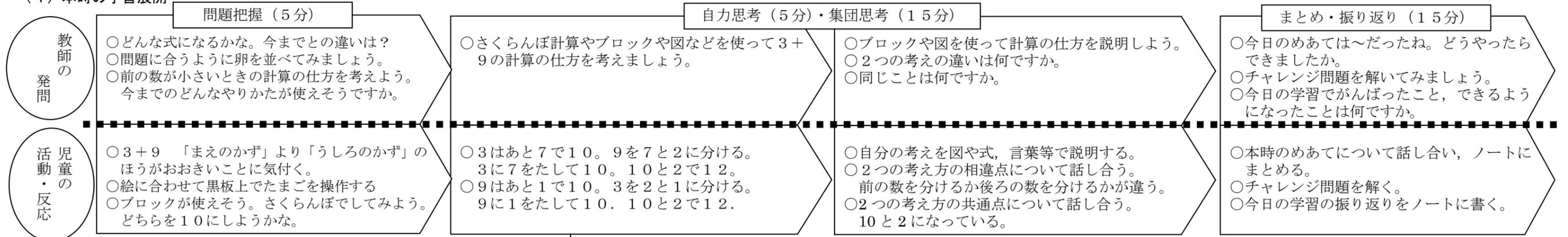
(2) 本時の評価規準

イ 10のまとまりに着目し、1 位数どうしの加法計算の仕方を、操作や図を用いて考え、表現している。

(3) 本時で育成したい資質・能力

B 自分の考えをブロック操作や図、言葉、式を示しながら伝えている。

(4) 本時の学習展開



10/5 p.65 めあて	<p>たしざん</p> <p>うしろのかずが おおきいときの けいさんの しかたを かんがえよう。</p> <p>みんな まなび</p>	<p>うしろわけ</p>	児童の考え①	まとめ	10といくつになるようにどちらかの かずをわけるといい。
もんだい	<p>たまごは あわせて なんこ ですか。 けいさんの しかたを かんがえよう。</p> <p>しき 3 + 9</p> <p>まえのかず うしろのかず</p>	<p>まえわけ</p>	児童の考え③	チャレンジ	3+8の けいさんをしよう。 まえわけほうでやってみよう。
ひとり まなび	<p>10をつくれればけいさんできる。 うしろのたまごをうごかすのはたいへん。 うしろのかずの9を10にしたほうがかんたんそう。 どちらを10にしようかな。</p>	<p>○うしろをわけるかまえをわけるのがちがう。 ○どちらも10のまとまりをつくっている。</p>	児童の考え②	ふりかへり	<p>まえのかずをわけてもけいさんすることができた。</p>

○指導・支援
⑦ 算数評価
⑧ 資質・能力評価

○立式したところで、これまでの式と比較して、どこが違うかに着目させる。
○卵の模型を提示し、児童に操作させることで、加数を移動させる大変さを体感させる。被加数の3を分けるほうが10を作りやすそうだという見通しを持つようにする。

○式、答え、さくらんぼ計算をノートに書いた後、ホワイトボードに式、答え、さくらんぼ計算、ブロック図、計算の仕方を書かせる。
○戸惑っている児童には、今までのやり方を想起させ、解決を促す。
○ブロックの操作の結果や図の10のまとまりに印をつけるなどして、「10といくつ」という数の見方に着目できるようにする。
⑧被加数、加数の大小に関係なく、10のまとまりを作ることに着目して計算の仕方を考え、操作や図などによって説明している。(観察・ノート)

⑧自分の考えをブロック操作や図、言葉、式を示しながら伝えている。(発言)
○3人の計算の仕方が同じ場合、もう1つの計算の仕方の図を用意しておき、その計算の仕方を考え、説明させる。
○児童から出た2つの考え方の相違点や共通点を話し合わせ、どちらの考え方も10のまとまりを作って計算していることをおさえる。

○本時のめあてに対するまとめを10のまとまりというキーワードを引き出しながらまとめる。
○チャレンジ問題を解かせ、本時の学習が理解できているか自分で確認できるようにする。
○振り返りの視点を示して学習感想を書かせ、本時の学習で何ができるようになったか、どのように考えたかを自分で振り返られるようにする。